

## 審判員県外派遣報告書

1	講習会名 (大会名)	四国高等学校バスケットボール選手権大会		
2	報告者	藤田 公介	所属連盟	U18
3	期 日	2019年6月15日(土)～16日(日)		
4	講 師	四国ブロックS級審判員(相原氏、白川氏、柏原氏、堀内氏、薦田氏)		
5	参加者	四国ブロックS,A,B級審判員		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲ ー ム 雑 感
1	6月15日	徳島城南vs松山工業	R	竹内渡 氏(高知)	松山工業がスピードのあるOFとプレッシャーのあるDFを終始続け、松山工業の勝利。
2	6月16日	新田vs尽誠	U2	CC: 中井 氏(愛媛) U1: 七種 氏(徳島)	新田がオールプレスで巻き返すも、尽誠のシュート力が上回り、尽誠の勝利。

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等				
<p>①講義(堀内 氏)</p> <p>「A級審判員に求められるもの」というタイトルで講義をして頂いた。          四国ブロックが求めているものとJBAが求めているものは、言葉が違うだけで根幹は同じである。①人間性 ②CCMを持った審判員の2つである。この2つを達成するために【インテグリティ】【決断】【責任】【オープンマインド】の4つのキーワードをどのようにオンザコート、オフザコートで発揮していくか、手本として示していくのかを考えていかなければいけない。</p> <p>②実技</p> <p>徳島城南vs松山工業(主任:佐竹氏)</p> <p>・2POのメカで、Lがローテーションをした後、ボールがエリア3,4の中間に展開され、そのままOOBになるケースがあった。そのOOBの責任はTだが、Lがローテーションした後もTがチェックインし続けている状態だとOOBに対して誰も判定できない状況になってしまう。Lのローテーションに対して、Tのチェックアウト、そしてエリア3,4に対するチェックインの意識が重要だと感じた。PGCで2POメカの話をしたが、やはりもっと具体的なシチュエーションを考えて話をしなければいけないと学んだ。</p> <p>・試合終盤に選手にTFを宣する場面があった。振る舞いに対するファウルとして当然取り上げる必要があったのだが、そのTFを吹かないようにするためには試合の序盤からどのようにゲームマネジメントをし、選手のインテンシティコントロールをしていけば良かったのかを時系列で振り返り、考えなければいけないと思った。<b>目の前の判定を積み重ねて、その結果試合がどのように終わりを迎えたのかではなく、どのような状態で試合を終えたいから、どのような判定をしていくのか</b>という逆算思考で考えていかなければいけないと思った。</p> <p>新田vs尽誠(主任:薦田氏)</p> <p>・Tの位置取りで、OFラインで位置取りをして、OFの斜め後方からプレイを捉えていることが多い。それだとOF、DFがストレートになるケースがあるので、基本はDFラインで位置取りをして、OF、DFに対してオープンアングルを取るとレフリーディフェンスがきちんと できるとアドバイスを頂いた。</p> <p>・ファウルの判定をした時に、ステイしたまま強くカウントなのか、2ショットなのかを示した 方が良いと指摘して頂いた。笛を鳴らした時に2歩、コートから遠ざかって示す癖がついているので、もう一度映像を確認して、どのように表現することが選手、ベンチ、観客に的確に伝えられ、強く見せられるのかを研究したい。</p> <p>最後になりましたが、今回派遣して頂きました審判グループの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>					

## 審判員県外派遣報告書

1	講習会名 (大会名)	令和元年度 四国高等学校バスケットボール選手権大会		
2	報告者	三谷 修司	所属連盟	U-15
3	期 日	令和元年6月15日(土)～16日(日)		
4	講 師	四国ブロックS級		
5	参加者	四国ブロック上級・ブロック講習生・各県B級		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲ ー ム 雑 感
1	6月15日	城北ー高知南	CC	U1:大西氏	序盤は城北がリードする展開となったが、高知南も粘り強いバスケットで一進一退のゲームになった。終盤に城北のプレスでボールを奪い、逆転した。
2	6月16日	富岡東ー高知中央	CC	U1:前田氏 U2:平尾氏	序盤は富岡東の3pやドライブが決まっていたが、徐々に高知中央が高さ、スピードに勝りゲームを支配していく展開となった。
3					

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>◎ミーティングを通して</p> <p>1ゲームを映像を通してミーティングをしていただくなかで、現時点での自分自身のプレゼン、ちょっとした仕草や癖などがよく分かり、それを今後どうしていくのかということを考えさせてもらえるいい機会となった。</p> <p>まだまだ上級として当たり前にはできなければならないことができている時があるので、1ゲームを通してやりきることの大切さだと思いました。日頃の審判活動の中で、もっと今のプレゼンというものを意識して取り組む必要があることを痛感しました。</p> <p>○堀内氏からのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回はメカニクスが大きく崩れることはなかったが、積極的にローテーションを行うことの大切さと、崩さないため の3人の協力の仕方についてアドバイスをもらった。</li> <li>・ゲームの時間が長くかかったことに改善の意識を高く持つこと。CCとしてゲームをリードする意識を持って、声をつかってテンポを上げていくようにする。</li> <li>・ダブルホイッスルが×ということではないが、吹いた後に誰のエリアなのということ共有してコールに行くようにすることが大切である。</li> </ul> <p style="margin-top: 20px;">今回は初日にS級の方々の2poを見ることができて、それも良い勉強になりました。まだ普段は2poをする機会もあるので、見て参考にしたいことを実際にトライしてみたいと思いました。今回の経験をU-15でも広めていくのが自分の役目であると言うことを理解し実践していきたいと思います。今回もこのようなすばらしい機会を与えていただきありがとうございました。</p>	

## 審判員派遣報告書

1	事業名	令和元年度 四国高等学校バスケットボール 選手権大会	2	日程	2019年6月15日・16日
3	報告者	岩瀬 寛明	4	派遣先	高知県高知市

5	<b>大会名称・期間 および 内容等</b>				
	大会名称	令和元年度 四国高等学校バスケットボール選手権大会	大会期間	2019年6月15・16日	
	内容等	四国4県の男女上位4チームが出場し、トーナメントによる優勝を決定する。			

6	<b>担当したGame</b>				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	6月15日(土)	新田-徳島市立	U2	CC 佐竹氏(高知) U1 山下氏(徳)	速いパス回しからのオフェンスを得意とするチーム同士で、トランジションの多いゲームであった。最後は新田がテンポよく得点を重ね勝利した。
2					

7	<b>審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等</b>				
<p>○ 研修講義について 講師:堀内 純 氏          講習内容は「ブロック講習生へ 上級審判員を目指す上で」ということで、心構えや人間性についての意識を高める必要性について考えさせられた。審判員に求められることとして、謙虚さや向上心が挙げられていた。A級審判員を目指すということはさらにその上のライセンスに目を向けて活動することを意味する。常に自己研鑽を忘れてはならない。また、ブロック大会で活動するということは地元の審判員の手本となる振る舞いを行わなければならない。そういった意味でも、客観的に自分の取り組みを見つめ、何事にもチャレンジする姿勢を基本としたい。</p> <p>○ ゲームについて          PGCでは基本的なメカの確認、プライマリーの確認、クルーワークの徹底を中心に行った。ゲーム中は互いの位置を常に把握し、アイコンタクトをとることができた。またそれぞれのレフリーがCCMをもつことも確認し、トラブルが起こる前に正しい対応ができたと感じる。その例として、アウトオブバウンズの訂正やベンチとのコミュニケーションが挙げられる。訂正の処置がスムーズに行えたのはよかったと感じる。</p> <p>ゲーム後の反省ではセンターの位置取りについてご指導いただいた。センターでのレフェリングの際、アングルをとろうとして上に上がりがちであることが映像でも確認できた。ストロングセンターの意識をもち、ポイントエリアにより近い位置での判定を心掛けるようにする。また、コールのタイミングについてもご指導いただいた。アングルが取れている場合、プライマリーでなくとも判定に加わる場面があるが、その際のコールのタイミングがジャストタイミングであった。明らかな現象に対してプライマリーでなければ、余裕をもってコールすることに気を付けたい。</p> <p>映像には自分の動きが細かく記録されていた。その動きの理由、つまり「なぜその動きをしたのか」のかがはっきりしないことがあった。スムーズなゲームの進行には、次のプレーの始まりに備え、無駄のないアクティブな動きを心掛けることが求められる。そうすればコートの中で強い存在感を示すことがもっと容易になるかもしれないと考えさせられた。</p> <p>今回のような貴重な経験をさせていただくことで、自分のできるようになったこと、さらに改善が必要なことが明確になり、今後の様々な活動でチャレンジする意識を高めることができた。今回の講義でもあった自己研鑽を続けていこうと思う。ご指導をいただきました四国審判委員会の皆様にお礼を申し上げます。</p>					

**審判員派遣報告書**

1	派遣事業名 令和元年度 第72回四国高等学校 バスケットボール選手権大会	2	派遣期日 2019年6月15・16日
3	報告者名 平尾 翔汰朗	4	派遣先 春野運動公園体育館(高知県)

5 大会概要 および 大会結果			
大会名称	令和元年度 第72回四国高等学校 バスケットボール選手権大会	大会期間	2019年6月15・16日
大会内容	四国の各県予選を勝ち抜いた男女上位4チームずつが出場する大会。 トーナメント形式で行われる大会。		

6 担当したGame					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	6月15日	高松工芸 vs 海部	U1	CC 竹村氏(高知) U2 玉田氏(徳島)	前半は拮抗した展開であったが、後半激しいディフェンスとリバウンドで圧倒した高松工芸が抜け出し、海部も追いつがるがそのまま高松工芸が勝利した。
2	6月16日	富岡東 vs 高知中央	U2	CC 三谷氏(香川) U1 前田氏(愛媛)	1Qはほぼ互角の展開であったが、高さや技術でまさった高知中央がリードを広げ、そのまま力の差を見せて高知中央が勝利した。

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>○講義について(講師:堀内 純 氏) 講義では「四国ブロックのA級審判員に求められるもの(ブロック講習生へ、上級審判員を目指す上で)」についてだった。A級審判員とはどういう立場か、ブロック講習生に期待すること、審判員に求められるものをそれぞれ深く学ぶことができた。審判員として求められていることが自分たちブロック講習生に期待することが直結していると感じたことと共にA級を目指すのではなく、その上のS級を目指して日々取り組むことが自然とA級審判員になることができると思えた。</p> <p>○高松工芸 VS 海部 主任:薦田 侑二郎 氏 ・メカニクスについて ゲームを通してベーシックなところはほとんどできていたが、ダブルコールになった時にプライマリーエリアの人がコールに行けてない場面がいくつかあった。まずは、基本のプライマリーエリアとプライマリーアングルの理解が不十分であった為にダブルコールになった際に相手レフリーにコールに行かせてしまったり、自分がコールしてしまうことが起きるのでもう一度ベーシックの確認と理解を突き詰めて行かなければならない。</p> <p>・CCMについて ゲームを通してCCMを持って発揮できていたと褒めていただいた。タイムアウト時やインターバル間のコミュニケーションや1Qからのtempo settingやセカンダリーとしてのコール、トラブルが起きた際にクルー間での確認等をチャレンジして取り組むことができた。リーダーシップを持ち強い存在感を出すことができたので継続して取り組んでいきたい。</p> <p>○富岡東 VS 高知中央 主任:堀内 純 氏 ・メカニクスについて ゲームを通してスイッチサイドに迷いがあり、行くべきシチュエーションでスイッチサイドが行えずクルーに迷惑をかけてしまった。素早くボールサイドをストロングサイドにすることでより良いポジション、アングルでプレーを捉えることができるので早い決断として積極的なスイッチサイドを行っていきけるようにする。また、自分のセンターポジションでのプレイの捉え方に対して指導いただいた。ベーシックセンターでボールの位置に対して自分のポジションが引っ張られてしまいレフェリーディフェンスができていなかったり、リードのスイッチサイドに対してセンターからトレールに上がるのが早すぎてしまいメカニクスの崩れが生じてしまった。ボールの位置を把握しておくことは大事だがポジションアジャストすべきケースではない時でも自分が動きすぎてしまっていた。もう一度センターだけに限らず各ポジションでのベーシックなメカニクスの理解を深め、修正をしていかなければならない。</p> <p>○2日間を通して 私は今回、四国総体の2日目の割当を掴むことを目先の目標として望んだ。その目標を達成することができたのは非常に自分にとっての良い経験と自信につながったと感じている。だが、最大の目標である上級審判員になる為にはまだまだたくさんの課題を見つけることができ非常に内容の濃い楽しい2日間となった。向上心と自己研鑽を常に意識し、これからもしっかりと目標に向かって取り組んでいきたい。 最後になりましたが、今回の派遣に際し、ご理解とご支援を賜りました、香川県バスケットボール協会の皆様にお礼を申し上げます。今後ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。</p>	

## 審判員派遣報告書

1	<b>事業名</b>	令和元年度 第72回四国高等学校バスケットボール選手権大会	2	<b>日程</b>	2019年6月15・16日
3	<b>報告者</b>	上村 公己	4	<b>派遣先</b>	春野運動公園体育館

5	<b>大会概要 および 大会結果</b>				
<b>大会名称</b>		令和元年度 第72回四国高等学校バスケットボール選手権大会	<b>大会期間</b>		2019/6/15・16
<b>大会内容</b>					
四国4県の男女上位4校が出場する計32校で行われる四国大会。					
男女ともトーナメント方式で試合をし、四国ブロックの優勝チームを決める大会。					
今年度より、優勝チームは冬のウィンターカップのブロックシードを獲得し、優勝県は2チーム参加できる大きな大会。					

6	<b>担当したGame</b>				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	6月15日	高知中央vs松山工業	U2	CC 前田 氏(愛媛) U1 木村 氏(愛媛)	前半から高知中央の留学生がゴールしたを圧倒し、点差が開いていく中、後半松山工業の激しいディフェンスから巻き返しを図る。高知中央が逃げ切って勝利した。
2					

7	<b>審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等</b>				
<p>高知中央 vs 松山工業 主任: 柏原 氏</p> <p>○身体の向きや目線 センターサイドで意識して身体の向きや目線がとれた。しかし、ステイで見る事が多く、いいアングルを取るためにトレイル時に少しくロスステップなどを入れたり、アングルの取り方に工夫が必要である。</p> <p>○プライマリーの理解 自分のエリア、アングルを正確に把握できていない。ボールを追ってしまうケースがあり、チェックイン・チェックアウトを意識しながら、自分のプライマリーを理解し、正しい判定ができるようにする。クロスコールもあったので、セカンダリー、ヘルプの意識も持って、笛のタイミングなども工夫したい。また、アウトオブバウンズのケースで、リードからサイドラインのアウトオブバウンズの判定をしたり、マニュアルを理解していない部分が多々ある。</p> <p>○メカニクス 前半はスムーズなローテーションができ、ボールサイド2を意識してできた。しかし、後半から高知中央は留学生が下がり、ベンチメンバーが出場すると、ゲームのテンポなどが変わり、メカが崩れる場面がでてきた。また、松山工業もオールコートからディフェンスを仕掛けて、センターサイドでボールを運ぶケースがあり、リードの早めのローテーションから、センターを早めにトレイルにする必要があった。</p> <p>○判定 少し軽い笛が多いと感じる。はじめのテンポセットで積極的に笛を挟んでいくのはよいが、RSBQにおいてディフェンスはイリーガルなディフェンスをしているのか、もっとレフリースタイルディフェンスを意識するべきであると感じた。</p> <p>2日間四国大会を経験して、自分の審判技術や知識が乏しいことをはっきりと気づかされた。まず第一にマニュアルが全て頭に入っていない。試合までに審判としての準備や心構えを大切に行っていきたいと感じた。非常に内容が濃く刺激的な2日間を経験することができた。</p> <p>また、様々な方々の支えで活動ができている事を再確認できた。感謝の気持ちを忘れず活動をしていきたい。</p> <p>最後になりましたが、今回の派遣に際してご協力をいただきありがとうございました。経験を活かし、成長していきたいと思っております。</p>					

## 審判員派遣報告書

1	<b>事業名</b> 第72回四国高等学校バスケットボール選手権大会	2	<b>日程</b> 2019年6月15・16日
3	<b>報告者</b> 藤野 唯人	4	<b>派遣先</b> 春野総合運動公園

5	<b>大会概要 および 大会結果</b>		
大会名称	第72回四国高等学校バスケットボール大会	大会期間	2019/6/15・16
大会内容	各県の選手権大会を勝ち抜いてきた男女上位4チーム×4の計16チームによるトーナメント形式の大会。		

6	<b>担当したGame</b>				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	6月15日	新田vs明德義塾	U1	CC 七種 氏(徳島)	終始、新田が機動力を活かして、留学生を中心に展開する明德義塾を圧倒し、勝利した。
2					

7	<b>審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等</b>
<p>新田 vs 明德義塾 主任: 中井 氏(愛媛)</p> <p>●メカニクス          トレイルの時、3番エリアにボールが進められた際、3POと同じようにCheck outしてしまう時があった。2POの時は、トレイルが捉えなければならないエリアや現象が多くなることに留意したい。また、リードの時、ボールが自分と逆サイドにあるにも関わらず、セットアップ ポジションに立ってしまっていた。その結果、トレイルが捉えづらいリング下の現象をヘルプできなかったケースがあった。ボールの位置に対して、しっかりと足を動かす習慣をつけたい。          2POに限ったことではないが、もっと足を動かして、よりよいポジションやアングルをとる必要がある。レフリーとしての経験が少ないからこそ、常にその意識をもって、よりよい判定ができるポジションを探し続けたいと改めて思うことができた。</p> <p>●CCメンタリティについて          講習会で講師の方がおっしゃっていたことであるが、レフリーとしてコートに立つ以上、CCやUなどの自分の役割、年齢、キャリアに関わらず、CC同様の責任感を持ち、自分がゲームをリードしていくという意識をもっと持つ必要がある。そのためにも、さらなるルールの理解やベーシックなメカニクスの研究をしていき、決断力や判定力を向上させたい。</p> <p>●判定について          ワンサイドゲームになればなるほど、イリーガルな現象に対して笛を挟まなければならない。具体的になるが、能力で勝る(勝っている)チームが、正当な守り方でボールをスティールしたのか、不当な触れ合いを起こしたのか、見極めたい。そのために、先にも述べたがルールとガイドラインをしっかりと理解することが必要である。また、アドバンテージについて考えるのであれば、能力が高いほうのみを考えるのではなく、公平性を保つためにも両チームにどのようなアドバンテージがあるのかということも考えられるようにしたい。          ゲーム終盤、勝敗が決まりつつある時間帯に集中力が切れてしまい、バイオレーションを吹きこぼしてしまった。どのようなゲームであろうと、しっかりとActive mind setしたい。</p> <p>2日間を通して、自分の実力のなさを痛感させられた。この経験を活かして、これからもよりよいレフリーになるために、コートに立つための準備をし、自己研鑽に励みたい。</p> <p>最後になりましたが、今回の派遣に際してご協力をいただきありがとうございました。これからも常に向上心をもって審判活動に取り組んでいきたいと思っております。</p>	

**審判員派遣報告書**

1	派遣事業名 四国高等学校バスケットボール選手権大会	2	派遣期日 令和元年6月15日～16日
3	報告者名 藤原 紘子	4	派遣先 春野総合運動公園体育館

<b>5 大会概要 および 大会結果</b>			
大会名称	四国高等学校バスケットボール選手権大会	大会期間	令和元年6月15日16日
大会内容	参加チーム 各県ベスト4のチーム		

<b>6 担当したGame</b>					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	6月15日	富岡東VS大洲	U1	CC: 金谷氏(愛媛) U2: 佐野氏(高知)	両者勝ち上がりの試合。開始から富岡東が激しいDFを繰り返し、速攻や3Pで点数を伸ばす。最後まで大きくリードし、富岡東が勝利。
2					
3					
4					

<b>7</b>	<p><b>審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等</b></p> <p>今回四国ブロックの講習会に参加させていただき、一番自分の心に残っていることは、講師の方がおっしゃっていたこの言葉である。「我々は変化を求められている。」変化ということについてである。ルールが変わり、メカニクスが変化してきている今、自分自身がレフリーとしてどうあるべきかをしっかり考え、いい意味で変わろうとしないと上級審判にはなれないのだと思った。</p> <p>土曜日の講習会では、「ブロック講習生に求められるもの」というテーマでお話をいただいた。レフリーとして求められることは、「謙虚さと向上心、日々の研鑽、地元審判員の手本となる姿とリーダーシップ」ということだった。わたしが一番感じたことは、日々の研鑽の中で、A級になりたいではなく、その先まで見据えたビジョンが必要であり、自分自身を客観的にみつめ、自分に不足していることを自分から学ぶ姿勢が大切だということだ。常に学ぶ姿勢があれば、地元で活動する仲間にも還元することができ、そのことが自分の活動にもよい影響を与えらると思う。また、クーラーフメンタリティ(CCM)についても詳しくお話があった。コート内外に関わらず、CCMを発揮できる瞬間がある。自分から発言したり、意思表示したりすること、自分の意思をもって決断することなど自分から何かに関わろうとする姿勢を日々もつことが大切であると感じた。</p> <p>担当させていただいた試合の中で、現在の一番の課題は、プライマリを考えた上での笛の入れ方(タイミング)だ。クーラーとして相手を信頼すること、ベーシックを大切にされた協力の仕方など自分自身の映像を見て分析していくことが大切だと感じた。また、担当した試合は一方的なゲームだったが、どのようなゲームでもプレゼンを力強く、わかりやすくすることが大切だと改めて感じた。「変化」ということからすると、もっと自分が変わることがあると思った。どのようにすれば自分自身がよい変化をし、向上できるのかをゲームの映像を分析したり、他の人とたくさん関わったりする中もっと学んでいきたいと感じた。</p> <p>今回審判長をはじめ、たくさんの方のおかげで四国ブロック講習会に参加することができました。わたし自身の現在の活動や今後の活動をどのようなものにしていくか、ということをも改めて考えるきっかけになりました。選手がバスケットを楽しんでいるように、自分自身もバスケットの楽しさを感じ、レフリーとしてどのようにコートに立つべきかを考えていきたいと思ひます。そして、自分自身のため、地元で活動する仲間のために今後も自己研鑽に努めていきたいと思ひます。今回派遣していただき本当にありがとうございました。</p>
----------	--

**審判員派遣報告書**

1	派遣事業名 令和元年度 第72回四国高等学校 バスケットボール選手権大会	2	派遣期日 2019年6月14日～6月16日
3	報告者名 高田 開	4	派遣先 高知県春野運動公園体育館

5 大会概要 および 大会結果			
大会名称	令和元年度 第72回四国高等学校 バスケットボール選手権大会	大会期間	2019年6月14日～16日
大会内容	四国各県の予選を勝ち抜いた上位4チームによる2日間のトーナメント戦 男子優勝は高知中央、女子優勝は聖カタリナで大会を終えた。		

6 担当したGame					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	6月15日	聖カタリナvs海部	U	薦田氏(愛媛)	序盤から聖カタリナが高さでスピードで圧倒。海部もあきらめず応戦するが、112-46で聖カタリナが勝利。
2					
3					
4					

7 審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等					
<p><b>○講義 堀内 純 氏「四国ブロックのA級審判員に求められるもの」</b></p> <p>まず、A級審判員とはどのような存在か、また四国ブロックの現状として全国と比較してまだまだ人数が少ないという話から始まった。そして、ブロック講習生には何が求められるのかという本題に入った。ブロック講習生とはA級審判員になれる可能性を与えられた各県3名ずつの12名であり、その自覚と意欲を持つことが必要であるとお話いただいた。また、B級からA級、A級からS級へ昇格する道のりについて詳しくお話があり、特に、A級に昇格したのちS級審査を受けることができるのはフレッシュマンと各ブロック推薦の数名であるため、ブロック講習生のうちにさらに先を見据えた準備が必要であることが分かった。次に、ブロック講習生に期待されることをいくつか紹介された。まずは謙虚さと向上心を持つこと、映像分析など日々自己研鑽に励むこと、新しい情報を積極的に取り入れることなど、自分も意識しなければいけないことばかりだと感じた。</p> <p>次に、CCMについてのお話があった。CCMとは、以下の3つを持つことである。</p> <p>決断・・・自分の意思を明確に他人に伝えること。 責任・・・自分の決断には責任を持つこと。 オープンマインド・・・間違いがあれば素直に受け止め、自分の価値観にこだわらず広い心でその原因を見つけること。</p> <p>これら3つに加え、インテグリティ(誠実さ、真摯さ)を持つこと、さらにコート上ではカリスマ性やリーダーシップを持ち、強い存在感を揮うことがCCMであると学んだ。このCCMを発揮すべき場面を、映像を使っていくつか紹介していただいた。特に、ショットクロックが残りわずかでもカットされたボールをディフェンスプレイヤーが投げ入れたシーンでは、ディフェンスの保持なのかそうでないのか、またショットクロックとゲームクロックを同時に管理する必要があった。このようなことはトップリーグだけでなく、普段の自分たちのゲームでも起こりうることであり、こういったときに正しく対応できるレフリーにならなければいけないと思った。</p> <p>また、メカニクスに関して大切なのはベーシックであると教わった。たとえトップリーグであってもベーシックを大切にすることは同じであり、さらにレフリー、プレイヤー、ベンチ、観客などそれぞれの立場をリスペクトし、ゲームの質を高めるための協力が必要と学んだ。</p> <p>今、トップリーグで求められていること、それはすなわちブロック講習生に求められていることと同じであり、さらにそれは、自分自身がこれからチャレンジしていかなくてはいけないことだと強く感じた。</p>					
<p><b>○担当ゲーム 聖カタリナvs海部 CC:薦田氏(愛媛)</b></p> <p>女子の1回戦を担当させていただいた。ゲームは序盤から聖カタリナが圧倒し、大差で勝利した。高さで技術の面で秀でる聖カタリナに対して海部がどのように対応するか、また優位にゲームを進める聖カタリナのプレーが本当にリーガルなものかを、ベーシックかつガイドラインどおりに判定できるかがポイントであった。自分自身の反省としては、体格で勝る聖カタリナのディフェンスの体の寄せ方や手の使い方に対して判定ができないことがあった。優位不利は関係なく、シリンダーなど、ガイドラインどおりに判定できるようにしなければいけないと感じた。主任の七種氏からは、メカニクスの面で自分のプライマリーに責任を持つことを言われた。特に、リバウンドではトレイルからしか見えないものがあり、アングルを変える、一歩踏み出すなど工夫して見る必要があると教わった。また、声をもっと使うことと言われた。自分では出しているつもりでも、大きな会場だと聞こえていないと分かった。もっと大きく、伝わりやすいトーンで声を出すことを意識したい。</p> <p>普段トップリーグを担当している薦田氏と一緒に吹かせていただいて、とてもいい経験になった。PGC、タイムアウトの時など優しくコミュニケーションをとっていただき、ゲームテンションが変わりそうな場面では準備して臨むことができた。またキレのあるプレゼンなど、とても学ぶものが多かった。</p>					
<p><b>○最後に</b></p> <p>最後になりましたが、今回の派遣に際しましてお世話いただきました皆様に深く感謝申し上げます。講義、ゲームで得たことをこれから生かして、もっと勉強していきます。これからも変わらぬご指導のほどよろしくお願いいたします。</p>					

**審判員派遣報告書**

1	派遣事業名 令和元年度 第72回四国高等学校 バスケットボール選手権大会	2	派遣期日 2019年6月14日～6月16日
3	報告者名 大西 空	4	派遣先 春野運動公園体育館

5 大会概要 および 大会結果			
大会名称	令和元年度 第72回四国高等学校 バスケットボール選手権大会	大会期間	2019年6月14日～16日
大会内容	四国4県 上位4チームによる大会		

6 担当したGame					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	6月15日	徳島城北一高知 南	U	三谷氏(香川)	終始両チーム譲らない試合だった。最後まで分からなかったが最後は64-62で城北が試合を制した。
2					
3					
4					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>○講義内容「四国ブロックのA級審判員に求められるもの」 講師 堀内 純 氏</p> <p>本講義では講習生に向けて新規A級になるに際して、ライセンス昇格の順序、四国ブロック上級審判員の方々からのアドバイス堀内さんが経験して、などについてお話を頂きました。</p> <p>●改めて国内の上級審判員(S級・A級)の確認、四国ブロック上級審判員の確認がありました。僕は四国の上級審判員は全国的に見ても多いのではないのか。という感じがしました。</p> <p>●四国ブロックの上級審判員の方々から期待することということで、沢山のアドバイスがありました。謙虚さと向上心、リーダーシップ、具体的な目標設定、県内外で教わったことをアウトプット、チャレンジする姿勢、アクティブに審判活動ができる基盤づくり、など多くのアドバイスがありました。</p> <p>●今、審判員に求められるものというお話の中で人間性・CCMを持った審判員ということで、CCMとは何か？3つ項目があり、①決断 ②責任 ③オープンマインド がある。とお話しを頂きました。</p> <p>①決断→常に自分の意思を持ち、その意思を正直に明確に相手に伝える。</p> <p>②責任→その決断について、自分自身が責任を負う</p> <p>③オープンマインド→間違いを素直に認める、また広い心を持つ。</p> <p>が、CCMの3つの要素である。</p> <p>また、CCMは決断力、カリスマ性、リーダーシップ、オープンマインド、強い存在感(ゲームをリード・コントロール)も要素としてあるとお話を頂きました。</p> <p>●メカニクスの面でお話を頂き、やはりBasicがとても大切ということを改めて感じました。トップリーグだからと言って何か特別なことをしている訳ではなく、Basicをとっても大切にしているとお話を頂きました。</p> <p>○徳島城北 VS 高知南 主任 竹内 薫 氏 CC 三谷 氏 (香川)</p> <p>●感想</p> <p>1ゲームを通してとても落ち着いては出来たと自分の中ではあります。crew間で終始コミュニケーションを取りながら行えたこと、ベンチとも適度にコミュニケーションを取りながら行えた点があります。</p> <p>●メカニクス</p> <p>メカではお互いに積極的にスイッチサイドをしようと、PGCの時に決めてそれが実行できたので良かったです。ですが、僕の中で自分が判定すべきものではないのか、なぜ決断ができないのか、と思うケースがありました。やはり、メカニクス・ルールの面でまだ自分の知識が浅いと感じました。</p> <p>●プレゼンテーション</p> <p>もっとわかりやすく、はっきりと示すべきとお話を頂きました。オフENSEのファールなのか、ディフェンスのファールなのかなど。</p> <p>〈所感〉</p> <p>今回、四国高校総体に参加させて頂いて、非常に有意義な時間を過ごすことができました。講師の方々のお話、女子決勝・男子決勝後のミーティングでのお話、何を話すかなど、沢山のことを学びました。また、同年代の方々とも触れ合えとても刺激になり、今後活動していく中で自分自身もそれに負けないように気持ちを高めたいと思いました。最後になりましたがこの様な機会を与えて下さった仲地審判長、田中審判長、関係者の皆様、周りの皆様に厚く感謝申し上げます。</p> <p>今回の経験を活かして精進していきますので、皆様ご指導の程宜しくお願い致します。有難うございました。</p>	